

佐賀県母親大会

シンポジウム

- パネリスト **田中 重光**さん（長崎県被団協会長）
- パネリスト **川崎 花笑**さん（広島市立大学2年）
- コーディネーター **染谷 孝**さん（佐賀大学名誉教授）

戦後80年、今私たちがするべきこと ～ノーベル平和賞からのメッセージ～

田中重光さん（長崎県被団協会長）



日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）代表委員。
長崎被団協会長。

4歳のときに爆心地からおよそ6キロにある自宅で被爆。
『二度と被爆者をつくるな』という思いで、永年運動に携わる。核兵器の非人道性、核廃絶を訴え続ける。ノーベル平和賞受賞により、核兵器廃絶への決意を改めて示した。

母親に限らず、どなたも気楽にご参加ください

日時

2025年

6月29日（日）

10:00～15:30

場所

アバンセ

佐賀市天神3丁目2-11

TEL0952-26-0011

分科会

10:00～11:50

4F 研修室

（詳細は裏面）

全体会

13:30～15:30

ホール

オンラインあり

参加券 一般700円 中高生無料
託児所あります

主催： 佐賀県母親大会実行委員会（佐賀市天神1丁目4-12）
問合せ： TEL/FAX 0952-25-1954（水町：090-8627-4790）

後援： 佐賀県・同教育委員会 / 神埼市・同教育委員会 / 佐賀市・同教育委員会 / 小城市・同教育委員会 / 多久市・同教育委員会 / 唐津市・同教育委員会 / 伊万里市・同教育委員会 / 鹿島市・同教育委員会 / 嬉野市・同教育委員会 / 武雄市・同教育委員会 / みやき町・同教育委員会 / 上峰町・同教育委員会 / 吉野ヶ里町 / 玄海町・同教育委員会 / 有田町・同教育委員会 / 大町町・同教育委員会 / 江北町・同教育委員会 / 白石町・同教育委員会 / 太良町・同教育委員会 / サガテレビ / ぶんぶんテレビ / NBC ラジオ / エフエム佐賀 / 佐賀新聞社 / 朝日新聞社 / 毎日新聞社 / 西日本新聞社 / 佐賀県保険医協会 / 佐賀県医療生活協同組合 / コープさが生活協同組合 / 佐賀子ども劇場



染谷 孝さん（佐賀大学名誉教授）

1953年東京下町に生まれる。東北大学大学院農学研究科農芸科学専攻修了。農学博士。専門は土壌微生物学。環境微生物学。「原発なくそう！九州玄海訴訟」原告団共同代表暫定代行。佐賀県原水爆禁止協議会理事。平和委員会会員。オスプレイ裁判支援市民の会会員。具体的にわかりやすい講演は、大変定評がある。



川崎 花笑さん（広島市立大学3年）

2004年白石町に生まれる。被爆者である祖母より被爆体験を聴き、「祖母が助からなければ、私も生まれていない」と関心を抱き続け、鹿島高校時代より平和希求の思いを発信。現在広島市立大学3年生。広島で被爆の実態伝える平和教育活動をしている。

お知らせ

☆託児希望の方は、事前に申し込みをしてください。

☆昼食・飲み物は各自ご準備ください。弁当を予約される方は各地域や団体をお願いします。

☆オンラインでの視聴を希望の方は水町（090-8627-4790）までご連絡ください。

分科会（10：00～11：50）【4F 研修室】

NO	分科会	会場	内容（学習と交流のつどい）
1	平和	第一研修室	助言者 染谷 孝さん（佐賀大学名誉教授） 『平和に生きる権利～佐賀からの発信』
2	食と教育	第二研修室	助言者 原 秀親さん（佐賀県教職員組合三神支部執行委員） 助言者 林 美佳さん（栄養教諭） 『子どもの幸せのために～今こそ食育を前進させよう～』

昼休み チャリティバザー（母親・地域団体）（12：30～13：25）（ホールホワイエ）

母親大会とは

1954年(昭和29年)太平洋ビキニ環礁でアメリカが行なった水爆実験によって、150カイリも離れた公海上で、平和にマグロ漁をしていた貧しい漁夫23名が「死の灰」を浴びました。決死の覚悟で帰国を果たしたあと、久保山愛吉さんが亡くなりました。広島、長崎につぐ3度目の被爆です。

母親大会は、1955年(昭和30年)「原水爆から子どもの命をまもろう」と日本の母親が世界の母親によびかけて始まりました。あれから70年、平和と子どもを愛する母親の要求をくみ上げ話し合い、力をよせあって毎年、日本母親大会(2024第69回 in 和歌山)、全国の都道府県母親大会(佐賀県は第61回)、地域の母親大会が開かれ行動してきました。

「生命を生み出す母親は、生命を育て生命を守ることをのぞみます」ギリシャの女流詩人のペリディスのことばは、母親大会のスローガンになりました。